

「おもしろえ直ぐやってみゅう」から生まれた「バルチップ」

萩原 邦章

創業者の口癖だった「おもしろえ直ぐやってみゅう」は、『萩原工業』で働く人の姿勢そのもの。この姿勢が新しいものづくり・ことづくりへの推進力になっています。

きっかけは、今から26年前の1993年の事、「アスベストからポリプロピレン短繊維に変わるぞー」とM営業マンからの情報が始まりでした。アスベストが発がん性物資で使用禁止になる。その為、何か代替品が必要になったというのです。それを聞いた瞬間、「直ぐに取り掛からなければ、出来ない・売れない」と感じ、販売を半年後に設定しすぐに開発をスタートさせました。「他社と同じ物を作ったのでは駄目だ。我々独自の技術を仕様に入れろ」と、無茶苦茶な事は承知の上で指示を出しました。社内の様々な方面から苦情を貰いながらも、関係各位の努力が実り、予定より3カ月遅れで「バルチップ」が完成しました。

アスベストの代替品として順調に拡販している中、次の話が浮上しました。「トンネルに使ってくれるらしいぞー。そうなったら、いっぱい出るぞー」と、M営業マンの勢いは止まりませんでした。一方、私は、「トンネルが潰れたら、会社も潰れるのでは・・・」との思いから、ストップの指示を出しました。私としては、建設業界との直接取引は初めてですし、業界関係者の方々からは「こんなに伸びる繊維がひび割れを止められるのか？」との意見も頂きました。私自身も建設業界にどれだけ溶け込めるのか不安でしたし、コンクリートの事を全く知らない状態でしたので手放しでは喜べず、本当に心配でした。そんな時には、やはり原点に戻る事でした。「おもしろえ直ぐやってみゅう」を胸に、最終決断を下しました。

某ゼネコンさんの協力を得て、トンネル吹付けの繊維が出来上がりました。しかし、出来た矢先に思いもよらない大トラブルが発生。ゼネコンさんの影響力は多大な物で、あっという間にバルチップが広まり、世間ではバルチップ=太物（トンネル用）となりました。それまで我々が拡販していたアスベストの代替品と混同されてしまい、社内は困惑状態・・・。問い合わせを頂いた際、お客様は太物（トンネル用）で話をされていますが、受けた社員は、細物（アスベスト代替品）だと思って対応しており、話が噛み合わない状態が一月間ぐらい続きました。そこで細物には「バルチップF」、太物には「バルチップMK」と名前を付けました。

当社は、ポリプロピレン短繊維のメーカーですので、

用途に合わせた繊維の開発が出来ます。その流れから、「バルチップJK」「PWJr」が完成しました。最終目的に沿って、且つ、施工者が苦勞しない品物を考えて開発しています。今では、トンネルの二次覆工、吹付け、橋梁、アーチカルバート、高架橋、道路、軌道、法面、土間コンクリート、屋上の防水押えコンクリートなど用途は多岐にわたります。

日本での販売実績を築いた後、即座に海外市場への挑戦をスタートさせました。当初はどこに声をかけても全く相手にされず、苦勞の連続でした。ある日、オーストラリアの鉱山で鋼繊維が使われているとの情報を聞き付け、バルチップを片手にオーストラリアへと飛びました。そこで運命の出会いがあったのです。建設会社の購買担当者にバルチップを見せたところ、何とその方が「これは面白い！」と建設会社を辞めて、バルチップの代理店として独立。その後、オーストラリアでの販売は順調に増え、代理店ネットワークもアジア・欧米・南米へと増えていきました。

昨年2018年には、その海外代理店ネットワークを買収。今や日本を含め世界10カ国にバルチップ販売拠点をもち、世界40カ国以上にバルチップを販売しています。

「おもしろえ直ぐやってみゅう」から生まれたバルチップは、まだまだ面白い未来を見せてくれそうです。



はぎはら・くにあき／
萩原工業(株) 代表取締役会長